

2008年 春

vol.13



吉野町商工会女性部  
吉野山支部発行

# 弘願寺

吉野山の総門に当たります、黒門をくぐりますと、にわかには道幅が狭く急な登り坂になります。弘願寺はこの坂の途中右手にある高野山真言宗のお寺です。

道端から見上げると小振りな山門越しに見える石造りの観音様は八起観音と呼ばれ、参拝者の願いを七転び八起きの慈悲心を持って叶える仏様で、その眼差しは道を往来する人々を優しく見守っています。観音様の左隣には宝生弁財天の社があります。

この弁天様は高野山の嶽弁天社の分社で商売繁盛に御利益があります。

山門をくぐって右手正面が本堂です。ご本尊は密教寺院としては大変珍しい立像の阿弥陀如来様です。この仏像は元々奈良若草山の西、聖武天皇の御陵の南にあったとされる眉間寺の新堂のご本尊で、今から七百四十八年前の鎌倉時代 正元二年（一二六〇年）六月晦日僧侶である重深の発願により、善派仏師の弁貫（一説には弁實）により造立された大変貴重な仏像であったことが平成四年の調査によって判明しています。また保存修理に当たっては弘願寺檀家の皆様を始め、金峰山寺や吉野山内の有縁の篤信家の方々のご寄付と吉野町並びに奈良県の補助を以て無事に終えることができました。

本堂の左には地藏堂があります。本尊は石のお地藏様で関屋地藏尊と呼ばれ親しまれています。像の高さは一メートル余りで、舟形の光背と右手に錫杖を執り左手には宝珠を持つおなじみの姿です。造立は戦国期の室町時代永正十二年（一五一五年）八月十五日で、元は関屋桜のほとりに祭られていたと伝えられています。古来よりの地藏信仰の変遷により、おそらくは桜峠のお地藏様や稚児松のお地藏様と同様、吉野山地区内に災難や厄難、疫病、盗賊の類の侵入を防ぐ結界の役目を持って集落の外れの道端

にひっそり佇んでおられたお地藏様であったのが、いつの頃からか、子供を見守り助ける仏様として信仰をされ、やがて抜けた乳歯を納めて歯の健康を願い、歯痛を止めるお地藏様へと変化したのではないかと思われま

また、御利益譚として現任職の聞き及ぶ処によりますと当寺の近所に住んでおられた篤信のお婆さんのお話として、ある時月参りにご自宅へ招いていた稲荷社の祭司に弘願寺のお地藏様が憑依し、この地藏尊の参拝方法とその御利益を伝え、身に付いた苔を洗い清めるべしとのご神託を下された。驚いたお婆さんはご近所のお婆さんを誘って石仏をたわしで綺麗に洗い、近郷の人々を以て今の位置に安置し、屋根を付けて汚れないようにお祀りしたとか。

尚、近年の歯の衛生観念の向上に伴い昭和四〇年台頃より歯がため地藏と名付けて歯塚を作ったり、最近では毎年六月四日の虫歯の日をご縁日として、柴燈大護摩供と千巻心経の法要を催し、参拝者にお加持をした歯ブラシを配り、護摩供の火で温めた長寿湯を振る舞ったりする健歯祈願祭を厳修しております。

（注一） 神仏のご利益を伝える物語  
（注二） 修験道当山派で修する護摩の事

弘願寺住職 本光良秀



関屋地藏尊

# 思い出じゅずつなぎ

雑感

坂本 笑子

もうすぐ吉野に桜が咲きます。尾根の道が埋まるくらい人で混み合う賑わいがやってきます。訪れる人は吉野を愛する人が多いと聞きます。どつぷりと吉野に浸かってその良さに気づかず、家業がらこの季節になると又忙しい時期が来る、どうして乗り切れるかと思いつつ何十年、またこの季節が巡ってきました。

今、昔のことを思い出すと現在のビクターセンターのあるところが吉野山小学校でした。児童数も二百人は越えていたと思います。塾も無くのどかでのんびりとしていました。講堂での学芸会、運動会、親子そろってお弁当をひろげて楽しかったことが思い出されます。同級生は当時五十人もいました。毎年同窓会を開いて当時の思い出話に花がさきます。時は流れ小学校も廃校になり、山全体での楽しみも無くなり、又子供の頃の遊び場であり登下校の集合場所だった勝手神社も消失し私たちの頃のように遊ぶ子もいません。高齢化だけが進んでいます。

吉野山が世界遺産に登録されて四回目の春がやってきました。お客様の数は年々増加傾向と聞いて嬉しい事です。奈良県も観光に力を入れて色々な環境整備を推進しているようですが、吉野山も年間を通じて花、修験道、歴史をたずねて世界中から吉野を楽しみ愛する人々がたくさん訪れてくださるよう、

町づくりに頑張ってください若い人と共に私ももう少し吉野をよく知り色々努力して行きたいものです。

## 心に残る春

K, O

十七年前の四月三日、満開の桜の下、私の息子は生まれました。

今思えば、「一年中で一番忙しいこの時期に・・・」と思います。初めての出産にそんな事を思う余裕はありません。そのおかげで息子の誕生日の祝いは、忘れっぱなしですが・・・

その年は桜の開花が早く、三月の末には神宮前の桜が満開で、それに合わせるように二十日の予定だった息子は、三週間近く早く生まれてきました。

今でも覚えているのが、吉野病院の裏の桜がとても綺麗で、退院してきた私と息子を迎えてくれたのが庭の大きな枝垂桜でした。ライトアップされた桜は、それは美しく、十七年たった今でも忘れられません。私の中で、桜の美しさはその年が基準となり、それ以上の桜はまだ見られません。何よりも、この忙しいさ中、文句も言わず新しい命の誕生を祝福してくれた家族や、お手伝いに来てくれた人たちに感謝します。

千三百年の歴史を刻んだ桜の様に、息子にも又、新しい歴史が刻まれています。十七年目を迎えての桜は、どんな花が咲くのか楽しみであり、又、息子の成長も楽しみです。

## 聞き耳ずきん

【山荒しとお客様の境界線】

春から初夏にかけて、山菜摘みのシーズンとなってきましたが、近頃ハイキングを兼ねて、又は山菜目当てとして吉野の山に入山される方が目立ってきたと思います。たとえ、百二十円のジュース一本買って下さった方でも、お客様です(金額の問題ではないので、す誤解しないで下さい)。だからと言って、山のマナーも守らずに、山菜を摘むのではなく、根こそぎムシリ取って良いと言う物ではないと思います。又、奥千本付近に自生しています山野草や高山植物等も掘り起こして持ち帰るそうで、山々にダメージが出て来ていると推測しています。お客様だから何をしても良いと言う訳ではないし、自然を壊す人や、山菜などは幾ら採ってもすぐに生えてくると、何の考えもなく根こそぎ採ってかえる人、こんな人達に対して、観光が主な生活の基盤だと思っている私たちは何も、ものを言っただけではないのでしょうか？山の神の恵みに感謝する気持ちも無く、食する分だけ山から頂戴するのでもなく、平気で私たち自然が好きなのナチュラルな、山に入って山菜や山野草を一杯摘むのが楽しいの、私から見れば、偽ナチュラルと偽エコノミストでしかないのですよ。でも、なかなかこんな私でもお客様に注意する事は難しいです。此れから先この、乱獲者からどう吉野のお山を守れば良いのでしょうか。自然を本当に愛して下さる方には綺麗な風景や可憐な野花を楽しんで頂きたいと思えますし・・・

(ペンネーム ポチ)

「吉野・山野草」みてある記 その二

日本たんぽぽ

日本たんぽぽ



西洋タンポポ



キク科  
 開花期三月～五月  
 日本には、エゾタンポポ、シロバナタンポポなど約2種が野生している。  
 西洋タンポポが繁殖している理由は、乾燥地や踏まれても強いのが原因とされている。  
 花ことば：愛の信託  
 葉はてんぷらやおひたしに食用できる。  
 根を煎じたたんぽぽコーヒーは身体を暖める（陽性）効果がある。  
 コーヒーが苦手な方冷え性（陰性）の方にお勧めです。

それは偶然知った事でした。ある日吉野山にいらした奈良県農林部の方が、「奥さん、庭のたんぽぽ大切に下さいね。今、日本たんぽぽは減少し西洋タンポポに変わってしまっています。この庭は日本たんぽぽが群生しています。」とおっしゃいました。何処にでも有り、一番身近な雑草と思っていた私は、驚くと共に綿毛を吹き遊んだ記憶がフーと甦りました。「耳に入ると耳が聞こえなくなるから気をつけて」と言われた幼き頃を懐かしく思い出しました。誰でも知っている、ごく普通の目立たない黄色のお花とばかり思っていたのは、私ばかりでしょうか。大切な大切な自然の中、可憐にそして誰もが知る日本たんぽぽを吉野の山に咲かせませんか。

福井正子

群すずめの 吉野葛 お料理教室

＝くず玉焼き＝

① キヤベツはザクザクと粗い干切り  
 豚肉は柔らかめなら何でも良い。  
 どちらもフライパンで焦げ目が付く程度に焼く。

② くず粉のみを水で溶き、卵一個と先に混ぜておき、カツオの粉（出汁用）と良く混ぜ合わせる。

③ ①の状態のところ②を流し入れ（そのとき油が多いと思えばペーパーで取り除く）火が通ると裏返し半分にたたむと良い。

④ お好みでとんかつソース・マヨネーズまたは醤油をかけていただきます。

【材料】

- 葛粉 60g
- 卵 一個
- 豚肉 50g
- キヤベツ 適量
- 紅しょうが



女性部だより

- \* 吉野町商工会女性部県外研修  
平成十九年十月二日
  - \* 京都福知山三和町商工会女性部による「お母ら工房」の見学と交流会  
正月用寄せ植  
平成十九年十二月三日
  - \* 鬼火の祭典  
平成二十年二月二～三日  
鬼の市「すずめの手作りお店」出店
- 皆様の協力で沢山の作品が出来ました。作成、販売のご協力ありがとうございました。

＝編集後記＝

まさに「意識改革」が始まっています。吉野山まちづくり協議会や商工会「ニューアイデアプロジェクト」等地域を活性化させようとする取り組みが充実してきましたね。この吉野山を愛する気持ちが集結し、深く知り、知恵を出し合い、この地に住んでいる事に感謝し誇りを持って歩んでいきたいですね。いつもおもてなしの心を忘れずに・・・。